

# 令和3年度 第1回 東北農政局国営事業技術検討会（再評価）

## 議 事 概 要

1 日 時：令和3年6月17日（木）15:30～17:00

2 場 所：名水市場湧太郎國之譽ホール（秋田県仙北郡美郷町）

3 委 員：北辻政文委員長、島谷留美子委員、角田毅委員、永吉武志委員、藤原絹子委員

4 内 容：

令和3年度第1回東北農政局国営事業技術検討会（再評価）を開催した。

はじめに、各委員の互選により、北辻委員長が選出された。北辻委員長の指名により、角田委員が委員長職務代理に決定した。

なお、本検討会は①傍聴可、②配布資料は検討会終了後、東北農政局ホームページで公開、③議事概要は検討会終了後、発言者及び発言内容を明記の上、東北農政局ホームページで公開することを決定した。

次に、本年度再評価対象である田沢二期地区に係る評価結果書案等について説明し、審議を行った。

5 審議内容：

○ 北辻委員長

総事業費が当初の計画では15,960百万円だったが、現時点で18,880百万円となっている。この内訳及び事業計画変更の要件である事業費変動10パーセント以上に該当しないのか、説明いただきたい。

○ 田沢二期農業水利事業所

内訳は、毎年の物価変動によるもので事業費が少しづつ改訂されている。また、これに伴う計画変更の要件は、物価変動を除いた事業費が10パーセント以上となることが見込まれる場合に計画変更の手続きが必要となり、物価変動を除くと159億円以内で推移しているため、事業計画変更の要件に該当しない。

○ 北辻委員長

本日、キュウリのメガ団地を見学したが、対象作物の中にキュウリが入っていないので、入れる必要はないか。

○ 田沢二期農業水利事業所

10年前に事業計画策定にあわせて JA をはじめとした地域により営農計画を立案している。営農計画の主要作物は、米のほかアスパラガス、トマトであり、これを対象として経済効果の算定を行っている。この時点でもキュウリはあったが、作付量がさほど多くなかったため、その他果菜類の作物として整理している。

○ 北辻委員長

キュウリのシェアは当時と変わらないのか。また、見直す必要はないのか。

○ 田沢二期農業水利事業所

時代によって儲けが出る作物が変わってきたため、需要動向に応じて、儲かるものにシフトいくのは問題ないと承知している。

○ 島谷委員

キュウリの件、事業実施中にキュウリのメガ団地のような取組が起きているならば、評価結果にキュウリを入れた方が良いのではないかと思うがどうか。

○ 田沢二期農業水利事業所

ここ1年で始まった取組みであるため、生産量をまだつかみきれていないが、今後の定着を見ながら、整理していきたい。

○ 島谷委員

車内で前歴事業に関する映像を見て、この地区の長い歴史や玉川の水を利用するためにつらいへんな苦労をされ、克服してきたことがよく分かった。現在実施中の事業もつなぎ合わせ、たくさんの方の知恵と工夫、地元のみなさんの努力でこの地域が成り立っていることを地元の人だけでなく、さまざまな地域の方、特に東北の都市部に住んでいる方にも見ていただく機会を作っていただきたい。

○ 田沢二期農業水利事業所

事業を進めるに当たって毎年、工事や事業の状況を記録に映像として貯めている。

令和6年度の事業完了前にそれを編集し、関係者に配付する予定である。具体的の配布先はまだ決めていないが、地元の小学校など子供に継承していくべき

ものだと考えている。地域の学校や図書館に配付した事例もあり、今回もそういった方向で検討を進めていきたい。

○ 藤原委員

評価項目のまとめの案のところで、本日見せていただいた地域用水機能増進というところで景観形成しているとか防火施設も一緒に整備している。環境との調和にも配慮している記載もあるが、地域用水機能増進の部分も順調に工事進んでいることも入れていただければと思う。今日は見なかつたが、抱返渓谷の観光地にもなっているところで、観光地がありながら、大規模な農業を行っている地区でもあるようなことも反映されればいいと思う。

○ 北辻委員長

冊子の中にも地域用水増進の進捗について記載していますので、評価結果のとりまとめのところに少し盛り込んでいただければと思う。

○ 田沢二期農業水利事業所

地域用水機能の維持・増進も図りつつに留めていた記載をもう少し強化する。

○ 角田委員

評価結果案について、特段問題なくよくまとめられていたと思う。水稻直播について説明があり、無コーティングだけ言及されている。普通は鉄コーティングの方が面積多いため、この記載で大丈夫か。

○ 田沢二期農業水利事業所

無コーティングは本日、視察したアグリフォードで行っている特徴的な取組であるが、通常のコーティングの取組を行っているところもあるため、無コーティングだけ特記して書くのは止め、訂正させていただく。

○ 北辻委員長

直播栽培は従来式の鉄コーティング方式に加えて、新しく無コーティングによる効率の良い直播栽培も試みているというように従前の技術も行っていることが分かるように書けばよいのではないか。

○ 田沢二期農業水利事業所

そのように記載する。

○ 角田委員

視察した農事組合法人のアグリフォーで大豆の面積が多いのは、水が来ないから大豆しか作れないということだった。結局、その場所は事業の範囲外のところという理解でよいか。

○ 田沢二期農業水利事業所

アグリフォーのハウスの水は、第二田沢幹線用水路から供給されているが、山手の方に入ると同用水路の水掛ではなく、渓流の水を利用している受益外の農地もある。当該コメントはおそらく渓流掛けの事を指していると思われる。

○ 角田委員

それについては、別の事業で改善されるのか。

○ 田沢二期農業水利事業所

地域として要望があれば、県営事業により大きいものでは場整備事業、小さいものでは耕作条件改善事業等の用水手当等の基盤整備が可能なスキームがある。

○ 角田委員

宮城県の統計を見てみると兼業農家がリタイアし、大規模層にかなり集中してきているという傾向が顕著だが、ここでも大規模法人が進んでいる。大規模化によって資源管理というのは今までのやり方と異なってきているかと思うが、そういう影響はまだ見られないか。

○ 田沢二期農業水利事業所

地域資源管理に対しては、多面的機能支払の取り組みで50程度の団体が活動しており、小さい水路の整備などが積極的に行われている。今、1法人50～60ヘクタール位で特に地域資源管理で問題は出てきていない。ただ、将来1法人あたり100ヘクタールを超えてくるとどうなるかは分からぬ。

○ 永吉委員

評価項目とりまとめ案でUAVによる防除を入れていただきたい。特に秋田県は農家人口の減少、高齢化が非常に顕著である。やはりこれらに対処するためスマート農業の取組というのが大事で、スマート農業の取組を評価すべきで、これがコスト縮減につながり、省力化のあとに追記すれば、しっくりくると思う。是非とも「UAVによる防除や」というような言葉を追加していただけれ

ばと思うがいかがか。

○ 田沢二期農業水利事業所

アグリフロー以外の法人でも去年、ドローンを購入した法人が多数あった。その中には、防除作業のほかに直播にも使いたいという法人もいた。まさに時代・地域はスマート農業を指向しているため、提案のとおり、追記する。

更に補足すれば、この評価項目のまとめの箇所だが、「いちごなどの高収益作物の導入もはじまっている」というように、もう定着しているものだけではなく、これから芽が出つつあるというという趣旨で記載しており、指摘のあつたUAVを入れるとちょうど整合が図られる。本来であれば、もう少し定着が進んでどんどん増えていると書ければいいが、残念ながらまだそこまで進んでいないため、頂いた指摘を是非入れた形としたい。

○ 北辻委員長

秋田県のNN事業は日本で最も活発に行われており、非常に良いことだと思っている。一方では、秋田県の人口は減少率が大きく100万人を切り、今では仙台市よりも少なくなっている。そういう中で、企業誘致も難しく、大きな産業もないことから、農業を中心とした一次産業による雇用の確保と地域興しが期待されているところである。その意味では今回の国営事業に対する地域の期待は大きいと思われる。特に将来を担う後継者に対して、もう少し明るい未来が見えそうだ、みたいなものを書くとか、それを数字化できる資料があれば、さらに良くなると思う。現地で県の説明にもあったが、例えば、一経営体あたり売り上げ目標が一千万円という具体的な目標を数値化することも良いと思う。つまり所得があがると地域の後継者の将来性は安泰だ、大丈夫だと思うであろうし、非常に期待されているというこということがわかる。

○ 事務局

今後の予定として、7月9日金曜日に第2回技術検討会を開催する予定。次回の技術検討会でご説明させていただく。

(以上)